

一〇〇年の差別——その闘いの記憶  
朝鮮学校の歴史と現状を描く初の長編ドキュメンタリー

子ども **아이들의 학교** ハツキョ  
**アイたちの学校**



監督／高賛侑 制作／「アイたちの学校」制作委員会  
撮影／小山帥人、松林展也、高賛侑 編集／黒瀬政男 テーマ音楽／朴守賢  
音響効果／吉田一郎(ガリレオクラブ) ナレーション／清原正次、姜河那 宣伝美術／高元秀  
ドキュメンタリー／2019年／99分

# この世に差別されるべき人間は一人もいません

～大阪朝鮮高級学校生徒の言葉から～

1910年—日本は武力で韓国併合を強要し、朝鮮半島を植民地にした。  
1948年—GHQと日本政府は朝鮮人学校閉鎖令を出し、閉鎖を強行した。  
現在—日本政府は法・制度的に民族教育の抑圧をはかり、  
裁判所の多くが追随している。

100年にわたって続けられてきた差別の歴史。  
在日朝鮮人はアイ(子ども)たちの夢を育むために、  
幼稚園から大学にいたる世界にもたぐい稀な民族教育事業を行ってきた。  
しかしいま、ウリハッキョ(朝鮮学校)は厳しい逆風を受けている。

2010年、政府は高校無償化制度からウリハッキョを排除し、  
地方自治体も次々と補助金を打ち切ってきた。

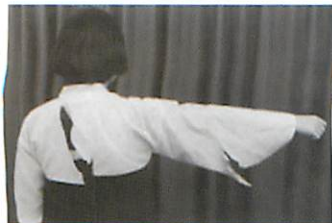
ウリハッキョは裁判闘争に立ち上がった。

その闘いは全ての外国人の子どもたちの教育権に連なり、  
多民族多文化共生の時代を切り開いていく。

知られざる歴史的資料や証言を発掘し、ウリハッキョの  
差別と闘いの真実を浮き彫りにする初の長編ドキュメンタリー。

## 4・24(サイザ)阪神教育闘争

在日朝鮮人は子どもたちに民族教育を行うため戦後まもなく全国各地に国語講習所を設立。やがて朝鮮学校に発展させた。しかしGHQと日本政府は1948年と49年に朝鮮人学校閉鎖令を出し、警官隊を大量動員して閉鎖を強行。反対運動に参加した朝鮮人2名が犠牲になった。



チマ・チョゴリ切り裂き事件



伝統舞踊を習う児童



1948年、阪神教育闘争のニュース映像



歴史的な大阪地裁の勝利判決



元文科事務次官・前川喜平さん



1951年、東京朝鮮中高級学校弾圧



授業は母国語で行われる



戦後間もない朝鮮学校の児童たち



4・24の時、警官隊は20発撃った



「差別するな!」と訴える人々



朝鮮高級学校卒業生公演



ハッキョと地域の人々が一体となる運動会

### 前川喜平氏(元文科科学事務次官)推薦

在日コリアンの子どもたちが「ウリ・ハッキョ」と呼ぶ学校。  
彼等が自分たちの言葉と文化を学ぶ学校。  
その過去と現在を学ぶことができるこの映画を、  
一人でも多くの日本人に観てもらいたい。  
共に未来を生きる者として。

### 高賛侑(コウ・チャニユウ)

朝鮮大学校卒。ノンフィクション作家。ライブ映像ワーク代表。  
著書『アメリカ・コリアタウン』(社会評論社)、  
『国際化時代の民族教育』(東方出版)、  
『異郷の人間味』(毎日新聞社)他多数。  
共著『在日一世の記憶』(集英社新書)、  
『ひとびとの精神史』(岩波書店)等。

韓国語版・英語版製作のCF(クラウド・ファンディング)にご協力ください。お問合せkochanyu@hotmail.com

## 2019年6月15日(土)▶28日(金)

※6/16(日)上映後、高賛侑監督による舞台挨拶あります。

■ 一般¥1,800/ユース(22歳以下)¥1,500/シニア¥1,100  
/アップリンク会員¥1,000(土日祝)¥1,300

東急本店右側道200m先  
**UPLINK 渋谷**  
03-6825-5503 www.uplink.co.jp